

ARC 主催講演会シリーズ

「エコの裏側で～知られざるアフリカの紛争との関係」



8月26日（金）、難波市民学習センターにて、ARC 主催の講演会を行いました。今回は、大阪大学国際公共政策研究科准教授のヴァージル・ホーキンス氏をお迎えし、「エコの裏側で～知られざるアフリカの紛争との関係」とのテーマの下、参加型ワークショップも取り入れた楽しい講演会となりました。以下、講演内容を簡単にご紹介いたします。

最近、どのテレビ番組、企業のコマーシャルでも、「エコ」が強調されています。そこで、日本でのエコ化推進の流れとアフリカのコンゴ民主共和国で起こっている紛争、環境問題との関わりについて一緒に考えていきたいと思います。

—*—*—*—*—*—*—*—*—*—*

コンゴでの紛争

冷戦後世界最大の紛争はというと、コンゴ民主共和国での紛争です。10年間で約540万人が亡くなっており、死者数の約9割以上は、暴力ではなく、病気や飢えが原因で亡くなっています。なぜ病気や飢えが紛争と関連するかというと、紛争によって物流や保険のサービスといった社会の機能が崩壊し、日常の当たり前のことができなくなってしまいます。コンゴの紛争は一口にただ内戦とはいえません。国際紛争の側面もあるし、国内の中央政府と反政府勢力との権力争いがあれば、また資源などをめぐった武装勢力同士の争いもあります。これらが複雑に絡み合った紛争がコンゴ民主共和国で起こっているのです。



コンゴで採掘される資源

コンゴ民主共和国には、スズ、コバルト、また銅、ウラン、ダイヤモンド、タングステン、タンタル等の資源が豊富にあります。タンタルはほぼ全ての電化製品に入っており、コンデンサーという部品に使われています。タングステンは携帯電話のパイプ機能などに使われています。スズはハンダに使われています。これら3つの資源は、紛争が激しい東部で多くとれることもあり、紛争と密接な関係があります。リチウムイオンの電池に多く使用



されているコバルトは南部でよく採掘されています。

スズとエコとの関係

スズとエコとは一体どのような関係があるのでしょうか。スズはハンダに使われていますが、以前は鉛も使われていました。しかし、鉛は環境にも人体にも悪影響を及ぼすため、使うのを制限しようという運動（鉛フリー運動）が始まり、特にヨーロッパではその運動が盛んになりました。2006年までには鉛の入ったハンダ使用の禁止を決定しましたが、鉛を使うのをやめたものの、ハンダは作り続けています。結果、原材料の大半がスズのみハンダが出回っている状況ができてしまいます。鉛フリーの運動が広まり、スズの需要も価格も大幅に上がります。コンゴのスズ生産量は世界5位。しかし、スズが多く採掘される東部の鉱山のほとんどが、武装勢力によって占領されています。スズの価格が上がると、鉱山の取り合いが激しくなり、紛争も激化します。また強制労働の問題を始めとする人権問題も深刻になっています。また中央政府も鉱山活動の監視までには手が回っていない状況です。

世界のスズの流れ

日本はインドネシア、タイ、マレーシア、中国からスズを輸入しています。コンゴのスズはインドネシア、タイ、マレーシア、中国へ輸出され、そこで精錬されたものが他の国へ再輸出されます。結果、日本は間接的にコンゴのスズを受け取っている可能性が高いのです。近年このコンゴからのスズ輸入に関して、大きな



動きがありました。2008年、アメリカがコンゴからのスズ、タングステン、タンタル、そして金の輸入を制限するという法律を成立させました。これにより、企業は彼らが使用している資源がどこからきたのかを明確にするのが義務付けられ、万が一コンゴから輸入した場合には、紛争との関係を調査しなければならなくなりました。この法律がきっかけでコンゴからのスズの輸出が激減しています。

コバルトとエコとの関係

コバルトは、ハイブリッドカーのバッテリーに使用されているリチウムイオンの電池に使用されています。最近ハイブリッドカーの需要が急増し、その影響でリチウムイオン電池の需要も急増しました。現時点では、リチウムイオン電池の生産量は、日本が世界一です。日本のコバルトは、フィンランド、カナダ、オーストラリア、ノルウェーからきています。最も多くはフィンランドからきていますが、そのフィンランドのコバルトのほとんどはコンゴかザンビアからきています。



コンゴ南部のコルウエジ市のコバルト鉱山で、深刻な環境問題が起っています。鉱山の近くの水が異常なほどの水色をしています。様々な化学物質が流れ込み、砒素、シアン化物、硫酸、ウランなどが混じってしまい、水の汚染につながっています。結果だと考えられています。また空気汚染も深刻です。鉱山から排出される粉塵のようなものによって、結核などの呼吸器の病気になります。加えて、放射能も流出しています。森林伐採はもちろんのことです。更には、コルウエジ市の地下にも、銅、コバルトがたくさん埋まっており、市の住民を強制移動させて、鉱山地帯にしてしまうのではないかと話もあります。これ以上コバルトを

取り続けて本当にエコなのでしょうか？このような鉱山採掘によって人体への被害、そして環境破壊による水質汚染で、使える資源が減ります。それがもとで、貧困が更に深刻になり、残った少ない資源をめぐる紛争になる可能性もあります。現実には、ナイジェリアの石油問題においても既に、先進国の企業が現地の石油を採掘し、富が住民に分配されず、更には環境汚染を引き起こし、結果的に紛争に発展したという事例があります。コンゴでも現状を改善しない限りは、今後このような状況にならないとも言い切れません。

—*—*—*—*—*—*—*—*—*—

《参加者のアンケートより》

- もっと話を聴きたいです。参加型のワークショップの形式は、このような内容には特に有効だと思います。
- 知識のなさ、考えの浅はかさを実感しています。レアメタル、紛争の問題など、つい背を向けてしまっている問題と向き合ってみる機会となったと思います。それでも自分の中になかなかアイデアが出てこなくて、聞いてばかりになってしまったので、本当に情報を集めることが考える第一段階だと思いました。
- 新しいことを考えるきっかけになった。ワークショップで他者と意見交換できたのはよかった。
- わかりやすく、とても有意義な時間でした。今日得た情報は、自身だけで持っておくのではなく、周囲にフィードバックしていきたいと思います。

《今回の講演を終えて：インターン吉田祐樹》

今回の講演会は、自身のインターンシップの最後の仕事として携わらせて頂きました。思えば、講師のホーキンス先生とお会いし、講演テーマについて打ち合わせしたり、会場を探したりと、全てが初体験でいい勉強になりました。当日も、本当に興味深い内容の講演を聴くことができました。ワークショップでは、参加者の方々が真剣に討論しており、皆様が有意義な時間を過ごせたのではないかと感じております。私自身、この講演会を拝聴させて頂いて、改めて「知ること」の大切さを痛感しました。やはり、全ては知ることから始まります。これからも、こういった機会を貪欲に求めていき、しっかりと世界の出来事、特にメディアではあまり報道されないアフリカ情勢には積極的に目を向けていきたいと思っています。最後に、3ヶ月間インターン生として受け入れて下さった、ARC 事務局長の小峯茂嗣先生に深く感謝申し上げます。

アフリカ平和再建委員会 Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN



〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ511
Tel/Fax: 03-3351-0892 E-mail: headoffice@arc-japan.org
ホームページ <http://www.arc-japan.org>

ツイッター始めました！



アフリカの紛争と平和に関するや情報の発信をしています！ @ArcJapanNews

どんどんフォローしてください！